

私のはんせい記

～ 津波と建築 ～ 12

建築家 三木 哲

● ホテル羅賀荘

ホテル羅賀荘は、岩手県県下閉伊郡田野畑村羅賀に建つ、鉄骨鉄筋コンクリート造地上13階、塔屋2階建てのホテルである。

田野畑村がホテル経営に参加し、本州の最東端の海辺に立地し、白亜紀の地層で形成される北山崎の断崖に連なる環境に建つ。

ホテルの記録によると、2011年3月11日の東日本大震災の当日、津波はホテルの3階まで襲った。86客室数に対し、60人の宿泊客は全員高台に避難し、30名の従業員は10階に避難した。

1階はホテルのエントランスホール、ラウンジなどがあり、ホテルにアプローチする高層棟の下層階には大浴場が配置されていたが、3階まで津波に襲われたため、JASO調査隊が見学に訪問した時は、ベニヤ板で開口部を封鎖し、養生してあった。

ホテルは被災後、修復・再生する計画を決定した。

津波から5年後の2016年5月の三陸調査では、島の越港からクルーズ船に乗り、コイコロベ白亜紀地層の断崖、矢越崎、ロウソク岩など北山崎を遊覧し、羅賀荘の温泉につかり、ホテルのリニューアル工事の苦労話を聞きながら夕食を取った。

リニューアル工事は補助金を受けて2011年4月より始められた。

女将の説明によると、3階まで津波を受けたので客室は全て4階以上とし、86室から67室に減らしたそうである。

また、従業員数も震災前より20名減らし、50名体制に減らし、ゴールデンウィークや夏シリーズに徐々に増やしてきたそうである。また、2階から裏山に逃げる避難ルートを新たに確保した。

工事中の写真や、リニューアル後の竣工写真を比較すると、低層棟を除却したり、塔屋を増築したりしている。これはライフライン設備の耐津波性を高めるために塔屋に移築したようで、建物全体をコンパクトに改修したようである。

2012年11月21日に、1年8カ月ぶりにリニューアルオープンし、花火を打ち上げた竣工式は盛大に開催されたそうである。

2016年5月の調査の際には、復旧なった三陸鉄道に田野畑駅から乗車し、修復工事が完了した島越駅の周囲を見学し、宮古駅でリアス線に乗り換え釜石駅まで乗車した。

このホテルは三陸地方随一のリゾートホテルとしての

質の高さを誇れる施設にリニューアル出来たと思う。

一方、「ホテル羅賀荘」と対照的な建物が宮古市田老にあった「たろう観光ホテル」である。この建物はかつてホテルとして営業していたが、2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波で被災、破損した後、津波の脅威を伝えるための震災遺構として整備された。

鉄骨造地上6階建てのこの建物は、高さ10mのX字型に配置された防潮堤の海側防波堤と、山側防波堤の間に建っている。

鉄骨造地上6階建てのこのホテルは津波で3階まで浸水した。1～2階は鉄骨柱・梁・桁、及び床スラブを残し、内外装仕上げ材やサッシ、鋼製手摺などの2次部材は完全に破壊されてしまっている。

被災した大型建物の所有者は、「修復して再生する」か、「震災遺構として保存する」か、「瓦礫として廃棄処分する」か、選択が迫られたと思われる。

「たろう観光ホテル」は、建物を宮古市に移管し「震災遺構として保存する」道を選んだ。

なぜだろう？ 素人ながらに勝手に想像すると…

まず第1に、津波被害が建物の過半に及び、リニュアル工事費が過大になり、十分な助成金が得られなかったためではないか？

このホテルは海からも駅からも遠く、堤防に挟まれた中間に立地し、羅賀荘に比べて、観光ホテルとしての自然環境の魅力に乏しいためではないか？

更には、古くから再三にわたり巨大津波の襲来を受けてきた田老地区に、津波防災を教育できる震災遺構が必要であると宮古市が考えたためではないか？

この遺構では2011年3月11日当日、津波が襲来する様子を、このホテルの6階から撮影した映像の上映が行われている。

恐らくそのような理由でリゾートホテルとして再生することができず、震災遺構として保存することとなったのであらうと思われる。

みき・てつ

㈲共同設計・五月社一級建築士事務所創設者。1943年生まれ。建築家がメンテナンスを手がけることなど考えられなかった時代から「改修」に携わり、40年以上にわたって同分野を開拓し続けてきたパイオニア。2023年6月没。

三木哲氏は2023年6月17日に逝去されました。この「津波と建築」編は、三木氏が生前に脱稿されたものを、㈲共同設計・五月社代表の三木剛氏(哲氏のご子息)のご承諾、確認を経て掲載しているものです。

編集部



復旧工事後の羅賀荘外観。3階まで津波を受けた。
左側の低層棟は除却され、右側塔屋が増築されている。恐らくライフライン設備を上層階に移設したものと思われる。



修復工事中のホテル羅賀荘。画面左側低層棟を除却している。



修復工事中のホテル羅賀荘。画面左側にある低層棟は除却され、コンパクトになっている。



修復後の大浴場。2012年11月に大浴場もリニューアルした。



リニューアル後の羅賀荘のラウンジ。



東日本大震災により3階まで浸水し、1階と2階は完全に破壊されてしまった「たろう観光ホテル」。

被災した施設が津波遺構としてそのまま保存されており、その姿から大津波の破壊力を感じることができる。

宮古市が取得し、震災の記憶を後世に伝える貴重な資料として、2016年4月から一般公開している。

外観の見学は自由で、内観の見学は予約必要。

見学ができるガイド「学ぶ防災」に申し込むと、津波が襲来する様子をホテル6階から撮影した映像を視聴できる。この映像は、津波が押し寄せる様子を当ホテルの6階から当時のたろう観光ホテルの社長が無心でビデオカメラ撮影したもの。